

平成28年度 徳島県立新野高等学校 学校評価統括表

学 校 運 営 計 画	総 合 評 価 と 次 年 度 の 課 題
<p>学校経営基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合学科の特性を生かし、生徒一人一人の個性や能力を伸ばす教育を推進し、進路希望の実現を図る。 2 望ましい生活習慣の定着を図るとともに、生徒・教職員・保護者の温かい人間関係の確立・伸展に努め、自分や他の人を大切にする心情・態度を育成する。 3 生徒のコミュニケーション能力や情報活用能力の向上に努め、社会の変化に主体的に対応できる力を育成する。 4 教職員の指導力・コンプライアンス意識など資質の向上を図るとともに、組織力の強化に努める。 5 地域との連携・協力を深め、地域から信頼される学校づくりに努める。 	<p>○学力向上と学習習慣の確立・進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習への取り組みは、なかなか定着しない状況が見られるが、学習時間調査では1日一人当たり1時間あまりの学習時間の確保が見られる。授業満足度や学習計画表の提出率も高いが、そのことが必ずしも生徒の進路希望の実現につながっていない面もあり、授業内容や学習計画をより充実させていくことが必要である。 <p>○基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立をめざして、遅刻・欠席の防止に努めており、欠席率は改善したが、遅刻率は改善できていない。遅刻率は2%以下の目標に対して2月末現在1.17%（昨年度同時期1.01%）であった。 ・頭髪・服装の指導に関しては、全校での一斉指導とともに、日々の登下校時やホームルームでの指導を行うことにより、違反者は少数にとどまり、ほとんど目立つことはない。さらにこの流れを継続するため、全職員での徹底した取り組みを行っていきたい。 ・校門前の日々のあいさつ運動が定着し、校内だけでなく地域においても生徒たちのあいさつが実践されており、継続した取組とともにさらに生徒の意識の高揚を図りたい。
	<p>(学校関係者の意見)</p>

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価	
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
学力向上と学習習慣の確立	<p>（全体レベル）</p> <p>1 基礎・基本を重視した教科指導を行い、生徒一人一人の能力・適性の伸張を図る。</p> <p>2 学習意欲の向上をめざし指導法の改善に積極的に取り組み、よく分かる授業の実践に努める。</p> <p>（下位組織レベル）</p> <p>I 学習習慣の確立により、家庭学習時間を確保する。</p> <p>II 指導法の改善に努め、教科指導力の向上を図る。</p> <p>III 基礎・基本の知識・技能の定着を図る。</p>	<p>I 実力テスト（1・2年）の国数英の総合評価において、年間でD3ゾーンの生徒を0にする。</p>	<p>I 国数英の総合評価において、年間でD3ゾーンの生徒をゼロにすることができなかったが、1年次は18%、2年次は29%の生徒が成績を向上させることができた。また、D3ゾーンより学力のあがった生徒は1年次65%、2年次53%の達成率となった。継続した学力向上への学習習慣を確立させるため、それぞれの教科・科目で宿題等の課題を設定している。</p>	<p>評価</p> <p>C</p>	B
		<p>II 基礎・基本の確認テストにおいて、各年次の目標正答率と目標達成人数割合の実現をめざし、教科指導を進める。</p>	<p>II 確認テストの正答率80%を全員が達成できた。また、実施計画どおり10回実施した。再々テストまで含めての合格率は、長期欠席者を除いては100%であった。</p>	A	
		<p>III 授業指導力の向上を図るため、公開授業及び相互参観期間を年2回以上実施する。生徒の授業満足度を80%以上にする。</p>	<p>III 相互参観期間を6月と11月に実施した。教科間を横断した参観が2回以上実施できた。生徒の授業満足度は79.1%であった。（アンケートによる）</p>	B	
		活動計画	活動実施状況		
		<p>I ①定期考査、校内実力テスト前に学習計画表を作成し、実行する。 ②週末課題を作成し、提出状況を評価に反映する。 ③各科目で年間指導計画を活用し、各単元における到達度の確認のため、効果的に小テストを実施する。</p> <p>II 同一教科のみならず、他教科間においても相互に授業参観を行うことにより、授業力の改善に努める。</p> <p>III ①「朝の学習タイム」で基礎・基本のプリントを実施し、学習習慣をつけさせる。 ②確認テスト実施前には、基礎力ドリルでの反復学習を行い、確認テスト不合格者には再テストを行う。また、テストの保管と解説の再読を指導する。</p>	<p>I 学習計画書を策定することはできたが、実行できたものは約35%にとどまった。また、週末課題を各教科で設定し、評価に反映させた。また、学習計画をたてることにより、1年次で平均20分、2年次で平均30分の学習時間の増加がみられた。 ③各単元の小テストの実施率は、50%だった。</p> <p>II 相互に授業参観を行い、授業力の改善に努めた。</p> <p>III ①「朝の学習タイム」により、家庭学習の習慣化にまで結びつけることができなかったが、生徒の72%、保護者の83%が「役立っている」と答えており、成果を上げることができた。 ②については、学習習慣の定着までには至っていないが、予定どおり実施できた。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）	評価	
進路指導の充実	<p>（全体レベル）</p> <p>1 望ましい人生観、勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現に努める。</p> <p>2 進路に応じた少人数指導、個別指導や進路ゼミを効果的に実施し、学力の向上・進路の実現に努める。</p> <p>（下位組織レベル）</p> <p>I 進路ガイダンスを多様化させる。</p> <p>II 保護者を交えた三者面談ならびに進路個人面談（定期、適宜）を実施する。</p> <p>III 個別指導を充実させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>I インターンシップ、講演会、科目選択ガイダンス、および校内進路ガイダンス等の生徒満足度が80%以上とする。</p> <p>II 保護者を交えた三者面談を年間1回以上、進路個人面談を年間2回以上実施する。3年次は必要に応じて随時面談を行う。</p> <p>III 進学希望者対象における第一志望の進路決定率を100%にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>I 予定通り実施できている。生徒の進路意識の向上や就職志望先の絞り込みに役立った。生徒の満足度は84%であり、目標を達成し進路決定に役立っており、指導は充実した。</p> <p>II 4月の個人面談、夏の三者面談、11月の教科選択指導や進路希望調査など予定どおりに実施できている。</p> <p>III 進学における入試はかなり緩和されており、本年の志望者においては、国公立大学志望者以外においては第一志望の決定率は100%であった。国公立大においては、2人が第一志望であったが、決定者は1名であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>評価</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>
	活動計画	活動実施状況		
	<p>I ①進路適性検査、インターンシップ、講演会、科目選択ガイダンス、オープンキャンパス、体験活動、就職・進学ガイダンス、進路希望別体験学習会、面接、マナー教室、進路希望調査、ハローワークとの連携。</p> <p>②個別面談による継続指導を行う。</p> <p>II 保護者対象の進路講演会の実施、保護者を交えた三者面談、進路情報の提供（情報誌、進路アンケート結果、若竹通信など）、指定校 推薦入試説明会、校外での進学ガイダンス等の参加案内を行う。</p> <p>III 進路希望に応じた教科指導、面談、論文指導を行う。</p>	<p>I ①予定どおり実施できた。7月・10月に生徒の選択科目検討会を持ち、進路希望とのミスマッチの防止等の対策とした。</p> <p>②適宜実施できている。</p> <p>II 5月の講演会など、予定どおり実施できた。今後も保護者との連携を充実させていきたい。</p> <p>III 予定通り実施できている。学習習慣の定着にもつながっている。</p>		

学校評議員会での意見

- ・ 遅刻率が減少し、学校が落ち着いているのは先生方の努力の賜であり素晴らしいことである。
 - ・ 生徒の基礎学力に向上においては、目標達成においては厳しい状況にあるが、生徒の現状に妥協せず厳しく当たって欲しい。
次年度の課題において、授業内容や学習計画をより充実させていくことが必要であるとあるが、国公立の大学合格をめざすことも含めて目標と学習計画のレベルアップを図る必要がある。生徒には総体的に厳しくあって欲しい。
 - ・ 学校再編においては、本校の施設は一般の方に広く開放するなど有効活用をして欲しい。
 - ・ 全体としては、新野高校は多様な生徒に対して細やかに手厚く熱心に指導してくれている。今後もその基本方針は崩すことなく生徒のためによりよくお願いしたい。
 - ・ 全生徒の遅刻率は、昨年度より悪いということだが、学年差が顕著なので、当該学年の前年度・前々年度と比較してはどうか。
 - ・ 学力向上は、D 3ゾーンの生徒数をゼロに設定しているが、確実に減少しており成果を上げている。目標値はゼロではなく、前年度の数値を参考に設定してはどうか。
 - ・ 学習習慣については、学校だけでなく家庭での学習も大切なので、保護者にも家庭学習の時間を確保・確認してもらえようようにして、年間の学習時間の目標を設定してはどうか。
 - ・ 学校でも社会でも「集中する時間」は大切なので、例えば、50分の授業のうち8割の40分間は集中できるようにしてはどうか。
 - ・ 進路指導については、生徒一人一人に対するきめの細かい先生方の指導が成果を生んでいる。
 - ・ 学校評価アンケート結果で、生徒と保護者の間に差異がある項目は分析すべき。
 - ・ 環境大臣表彰など沢山の素晴らしい実績があるが、全校生徒が共感できるようしっかりと広報活動をしてほしい。
 - ・ イシマササユリ保護活動など環境教育は、新高校でも継続して頂きたい。また、バイテク分野は高大連携活動でさらに発展させて頂きたい。
- 遅刻者数がここ3、4年数値目標の2%台に落ち着いているが、学年によって較差があるようだ。学年ごとに過去2年間の平均をとったものを数値目標としてみてはどうか。
- D3の生徒を0にするという数値目標にしても、前年度の数値と比較し、生徒たちの現実的な数値を考えてみてはどうか。
- 学習習慣については、生徒が学習する時間目標を掲げる時に、生徒本人だけでなく保護者にも通知するようにし、年間を通じて、目標値を下回らないようにしてみてもどうか。
- 50分授業のうち40分間ほどは、集中力を高めさせていただきたい。40分間授業を集中して受けることは、高校卒業後の社会生活にもつながっていくのではないかと。
- 生徒ひとりひとりに対する手厚い先生方のご指導が、生徒の進路実現につながっている。
- 学校評価アンケート集計結果の中で、生徒と保護者の間に差異がある項目については、よく検討していただきたい。
- 環境大臣賞受賞などは素晴らしい実績である。このような実績を全校生徒が共感できるような校内での広報活動を行ってほしい。環境教育については、新高校になっても継続していただきたい。バイテク分野に関しては、高大連携などを通してもっと発展させていただきたい。